



筑波大学 比較文化学類

College of Comparative Culture, University of Tsukuba

令和4年8月7日(日)

令和4年度(2022)受験生のための筑波大学説明会 比較文化学類への招待



人文・文化学群 比較文化学類

<http://www.hibun.tsukuba.ac.jp>



ようこそ筑波大学へ Imagine the Future

- ◆ 明治5年(1872)開設の師範学校, および東京高等師範学校, 東京文理科大学, 東京教育大学を前身とし, 昭和48年(1973)10月に**新構想の総合大学として「筑波大学」**開学
 - 令和5年(2023)開学50周年
- ◆ 研究大学 : 指定国立大学法人, RU11
- ◆ 未来構想大学 : 想像(imagine) / 創造(create)
- ◆ 教育組織(学群/大学院)と研究組織(系)との分離
 - 9学群 23学類制
- ◆ 学群生・大学院生は約16,500人(留学生約2,200人)
- ◆ 教職員数約4600人



筑波大学の教育力：教育の保証

充実した教養科目(全人教育, アカデミック・リテラシー)

◎コミュニケーション能力

◎批判的・創造的思考力

◎データ・情報リテラシー

◎広い視野と国際性

◎心身の健康と人間性・倫理性 ◎協働性・主体性・自律性

厳格な成績評価(単位の上限下限, GPA制度)

→豊かな履修科目(特に比較文化学類では他学群・他学類の多数の科目の履修が可能)

グローバル人材の育成

英語プログラム, 英語による講義

留学:協定校(全学では69の国・地域の大学や研究機関と381の協定を締結しています
(比文の学生が利用できる協定も50以上あります)

留学生:約2,200人(国立大学で有数)



学年暦のイメージ

◆ 2学期・6モジュール制

春学期(4月～8月初旬) 秋学期(10月～2月中旬)
学期にそれぞれ5週間ずつ, A・B・Cの3モジュール

◆ 1時限の授業時間は75分

1時限 8:40開始 昼休み 11:25～12:15 6時限 18:00終了

- 講義・演習 1単位 = 10時限授業 + 試験(レポート)
- 比文では**124単位**で卒業



比較文化学類の教育理念

- ◆ 現代社会に関わる諸問題を理解し、専門知識や方法論を身につけ、直面する様々な課題を解決できる能力をもつ人材の育成
- ◆ 現代性・学際性・国際性：広い視野



比較文化学類学修の基本

- ◆ 比文 HIBUN では何ができるんでしょうか？
→好きなこと！
- ◆ 好きなこと、関心があることを「**学問**」にできる
- ◆ 学修(必修科目以外)の内容・過程・方法は、原則として**自由**に選択することが可能
- ◆ **文学・音楽論**を専門にすることができる唯一の学類



学士(比較文化)へのマイルストーン



文理に跨がる広い分野の教養を身につけるとともに、人文学を学ぶための**基礎スキル**を修得する



文化研究の専門基礎・知識を学修しながら、自らの**関心にあう専門**の領域・コースを選択する。



専門を体系的に深めつつ、**卒業研究を構想**し、領域・コース・指導教員を決定する。



コース・指導教員のサポートを受けながら、卒業研究を遂行し、**卒業論文を完成**する。(原稿用紙約100枚)



1・2年次の学修

◆ 基礎的な能力の養成

アカデミック・リテラシーの獲得：外国語・情報・国語

第1外国語：英語（3年次まで必修）

初修（第2）外国語：独 仏 中 西 露 朝 + 古典語
（2年次まで必修）

◆ 多面的な知識の獲得

1年次：領域・コースの比較文化研究・概論科目の履修

2年次：概論科目・専門導入基礎演習の履修

専門科目（講義・演習・実習）の履修開始



3・4年次の学修

◆ 専門的・体系的な知識の獲得

専門科目(講義・演習・実習)の履修

◆ 卒業論文による集大成

3年次:所属する領域・コース・指導教員の決定

卒業論文基礎演習—研究計画案作成

4年次:卒業論文演習—コース・指導教員(複数)のもと

卒業研究の遂行

卒業論文中間発表会の実施

卒業論文の執筆・完成 →発表会(口頭試問)



“選択”の自由を保障

卒業までに

- 自分の **領域** から最低**10単位**をとる
- 自分の **コース** から主指導教員を選ぶ

成績に応じて・・・

履修科目登録の上限緩和制度
早期卒業制度
グローバル人材育成事業制度



比較文化学類の領域・コース





比較文化学類のコスモス

自分の好奇心を探究していく！

比較文化学類で 何を学ぶか





比較文化学類のコスモス説明

- ◆ 比文では学びの手がかりとして、地域のもつ固有性にこだわる**地域文化研究**，地域を横断して現象や思想に注目する**超域文化研究**という**2つの領野**に分け，さらにそれぞれ3つ，**合計6つの領域**を設けています。地域文化研究領野には，日本・アジア，英米・ヨーロッパ，フィールド文化，超域文化研究領野には，表現文化，文化科学，思想文化の各領域があり，さらにその下に**17のコース**が置かれています。



領域とコース

大学では履修上に各種の制約があるのが普通ですが、比文の学びは、それらとかなり異なります。比文は自由、とよく言われていますが、卒業までに求められるのは、所属する領域から最低10単位を修得すること、所属するコースから主指導教員を選ぶこと、基本はこの2つだけです。



日本・アジア領域：コンセプト

- ◆ **日本とアジアにおける文化の諸相を文学・歴史・宗教・社会などに着目しながら体系的に学びます。**
- ◆ 現代の世界を考える上で、アジアの占める位置は確実に大きくかつ重要になっています。現代社会が多くの困難を抱える状況にあつて、日本とアジアが育み培ってきた叡智は、どのような役割を担い得るでしょうか。こうした課題に専門的・多面的に取り組み解決するための、知識と能力を持つ人間を育成します。



日本・アジア領域：コース紹介 1

◆ 日本文学コース

◆ さまざまな時代のさまざまなジャンルの作家や作品について研究することができます。まず概論や文学史で専門基礎知識を養います。続いて講読や特講では、具体的な作品をとりあげ、精読を行うための方法を身につけます(くずし字が読めるようになります)。演習では、受講生自身が文学研究を実践し、卒業論文へとつなげていきます。

◆ 日本研究コース

◆ 日本列島に住む人々の文化・現代社会の諸問題を、個別の地域に生きた人々の歴史・生活・政治・思想・宗教などに着目し、多元的・複眼的な視点から学びます。

◆ 基礎的な知識や方法論を学ぶ講義のみならず、個別具体的な地域の生活・政治・宗教・思想を題材とする講義・演習と、日本列島に展開した農山漁村・都市の日常生活の場から、地域に根ざした諸問題を発見し研究する実験実習(フィールドワーク)が開講されます。



日本・アジア領域：コース紹介 2

◆ 中国文学コース

◆ **中国の古典作品を対象とします。**中国古典文学を深く読み解くためには、文学作品だけではなく歴史書や思想書を参照する必要があります。

◆ **まず、中国文学概論を受講して中国古典文学を学んでいくための基礎的な知識や技術を習得します。次に、講読や文学史で本格的に中国文学の世界に入っていきます。更に、演習で中国古典文学の専門性を高めます。**

◆ アジア研究コース

◆ **中国、韓国朝鮮、東南アジア、インドを中心とした南アジア、チベットを含む内陸アジア等を対象地域として、アジアの文化、民族、宗教、政治、社会について学びます。基礎になるアジア地域の言語(漢文、現代中国語、インド古典語、チベット語)、などを用いた資料の解読にも力を入れています。**



英米・ヨーロッパ領域：コンセプト

- ◆ 英米・ヨーロッパ領域では、学生各自の選
択した**地域・言語域の文学・文化・歴史**を研
究し、優れた**外国語コミュニケーション能力**
と、異なる文化に対する理解力、そしてグ
ローバルな視座から自文化を省察する能力
を身につけます。



英米・ヨーロッパ領域：コース紹介 1

◆ 英語圏文学・文化コース

- ◆ 充実した英語力を養いつつ、英語圏(アメリカ、イギリス、カナダなど)の文学と文化についての理解を深めます。伝統的な英米文学研究とともに、英語圏の文学理論・文化理論を踏まえた、ジェンダー論、人種論、メディア研究、映画研究なども奨励されます。1・2年次対象の「文学論」および「研究」で基礎をつくり、2・3年次対象の「特講」で視野を広げ、3・4年次対象の「演習」では自分の研究テーマにそった授業を選択します。

◆ ドイツ語圏文学・文化コース

- ◆ ドイツ語圏(ドイツ、オーストリア、スイス)の文学・思想・演劇・音楽・映画・身体文化などを取り上げ、その背後の社会的・歴史的・政治的・思想的文脈も押さえながら研究します。



英米・ヨーロッパ領域：コース紹介 2

◆ フランス語圏文学・文化コース

- ◆ フランス語の読解・運用能力を高めつつ、フランス語圏の文学・文化について歴史的・社会的視点を交えて体系的に学ぶことを目的とします。1・2年次対象の「フランス語圏文学・文化概論I」でフランス文学史の全容をつかみ、2年次以降は「フランス語圏文学・文化講読I～IV」や「フランス語圏文学・文化演習I, II」の授業で、実際に様々な作品や文献と対決しながら考察を深めていきます。

◆ 欧米研究コース

- ◆ 現代世界の基盤となっている欧米文化について、地中海を巡る古代・中世の文化圏、大航海時代に世界中に拡大したスペイン文化圏、ヨーロッパの東からアジアに到達したロシア文化圏、また太平洋を巡って広がった英米文化圏の歴史的背景から深く理解します。
- ◆ 歴史上世界を動かしてきた数々の帝国とその文明圏について、各教員が欧米文化論、欧米文化論演習などを開設しており、興味のある地域や文化について毎年続けて受講することができます。



フィールド文化領域：コンセプト

- ◆ 日本・世界における地域文化の多様性をフィールドワークによって明らかにし、人間と場所のかかわりを通して「人間とは何か」を体系的に学びます。
- ◆ 文化研究の一つの手段として、地理学的・文化人類学的・民俗学的・地域研究的なものの見方・考え方・スキルを修得する事により、自律的に問題を発見して解決する能力を備え、コミュニケーション能力の優れた、広く社会で活躍できる人材を養成することを目的とします。



フィールド文化領域：コース紹介

◆ 文化人類学コース

- ◆ 文化人類学・民俗学・歴史学の研究伝統を踏まえ、フィールドワークを中心にした諸方法によって文化や歴史の多様性と普遍性について理解したうえで「人間とは何か」を深く考えます。講義では、考えるための「構え」や「視点」を身に着けるとともに、文献や資料をいかに読むかを学び、実習を通じてフィールドワークの練習をします。

◆ 文化地理学コース

- ◆ 世界の諸地域における人々の生活・文化の諸相を、場所・空間・地域・環境・生態・景観といった地理学的視点を切り口にして、フィールドワークを中心とするさまざまな方法を通して考察し解明します。
- ◆ 講義と実習を通して、文化地理学のモノのみかたから、研究資料の収集方法、GIS(地理情報システム)を用いた分析手法、パソコンによる主題図作成にいたるまで、懇切丁寧に指導します。



表現文化領域：コンセプト

- ◆ **文学理論・比較文学・文化理論**などのテキスト・メディア文化分析を批評的かつ学際的な観点から、また**表象文化（美術・映像・音楽など）**に関する**文化創造**のダイナミズムを思想的かつ実践的な観点から、体系的に学びます。



表現文化領域：コース紹介 1

- ◆ **テキスト文化学コース**
- ◆ **文学理論や比較文学、文化研究**などの手法を用いてテキストの生成と多様な実態に目を向け、表現文化を体系的かつ実践的に学びます。**世界の文学を比較して論じたり、ジャンルを超えて文学や映画やマンガの作品を総合的に分析したりします。**
- ◆ **文化創造論コース**
- ◆ 文化創造の現場と連携し、社会との関係性を問いながら、文化創造のダイナミズムを分析することを目指します。**映像、写真、音楽、サブカルチャーなどの新たな分野を扱い、従来のアカデミックな美学、哲学の枠組みを超えた、脱領域的な思想、理論(ポスト構造主義思想、ジェンダー理論、文化研究など)を用います。なお、筑波大学では唯一、音楽関連の授業を開設しています。**



- ◆Q 文化創造論コースとテキスト文化学コースの違いは何ですか？
- ◆A文化創造論コースの特徴は、美術・映像（映画や写真）・音楽など表象芸術活動・表現芸術活動に関する勉強ができることです。
- ◆テキスト文化学コースでは、地域を越えた文学研究や学際的な文学研究（文学理論や比較文学、文学の文化的的研究など）を中心にしていますが、「テキスト」という概念を広くとらえて、マンガやアニメなどの大衆文化も対象とされています。



表現文化領域：コース紹介 2

- ◆ One-Planet Relational Studies in Literature and Culture (ワンプラネット文学・文化関係学)コース
- ◆ 英語を用いて、グローバルな視点から文学・文化を研究します。地球温暖化、高齢化社会、難民と移住、男女平等、差別、プラスチック汚染、飢餓などの地球規模の危機問題に焦点を当て、回復力、持続可能性などの諸問題に対峙し、これらを解決する視野を養います。
- ◆ このコースでは、たくさんの国際的な触れ合いを通じて、英語学習と研究の環境を楽しむとともに、英語能力を向上させます。



文化科学領域：コンセプト

- ◆ 生命・身体文化、芸術文化、公共空間と私的空間、情報化、メディア、コミュニケーション、ジャーナリズムなどをキーワードに、人間社会の諸問題について複合的な視点から探求します。



文化科学領域：コース紹介

◆ 先端文化学コース

◆ 各時代の先端的な思想や理論を踏まえて現代文化について学びます。

学生の自由な発想を学問の言葉にするために、〈文化摩擦論〉〈文化記憶論〉〈イメージ人類学〉〈身体・感性文化論〉などを専門とする教員がていねいに指導します。

これにより〈現代〉を捉えるための専門知識や問題解決能力を養成します。

◆ 情報文化学コース

◆ コミュニケーションをキーワードとしながら、メディア、ジャーナリズム、情報化、宣伝・広告、大衆文化といった問題を研究対象に、社会科学的・人文科学的に学習・研究することを目的とします。

◆ 「情報文化概論」や「映像文化論」などの講義科目や「コミュニケーション論演習」や「情報社会論演習」といった少人数科目を提供しています。



思想文化領域：コンセプト

他者、暴力、生と死、公共性、自由、ポストモダン、自己とは何か、宗教とは何か、人はなぜ信仰するのか、科学とは何か、真理とは何か、人はなぜ戦うのか。これらの問題を、**現代哲学・現代倫理学・宗教学**のすべての知を結集し、しかし、あくまでも身近な自分自身の言葉で語り、他者と共有する新しい協働の場を切り開いていきます。



思想文化領域：コース紹介

◆ 現代思想コース

◆ 真理、社会、共同体、歴史、個人の生と死、幸福、自由、ポストモダン、比較思想、科学、言語などをキーワードに、様々な思想家のテキストに基づいて現代思想を広く学ぶとともに、演習科目などでの議論を通して、自分の力で哲学的に考える力を養います。ハイデガーやヴェイトゲンシュタイン、老子もカントも、ハーバーマスもどこまでも深く読めます。

◆ 比較宗教コース

◆ 宗教は、過去から現在に至るまで、日本を含めた世界各地で、社会的、文化的、歴史的にも非常に大きな役割を果たしており、個人の生き方や家庭生活においても重要なものです。さらに、一部の国々では、宗教は政治や経済とも密接に結びついています。信仰の立場からではなく、可能な限り客観性を意識しながら、宗教を人間的・社会的現象として学問的に考えることを目的としています。概論では、世界の諸宗教の基礎知識、宗教学の理論、方法を学びます。演習では、最近の研究動向を学びながら、諸宗教の主要な聖典等に触れ、宗教学の多様なテーマを学びます。

さらに詳しく知りたい方へ

◆ 『比較文化学類への招待 2023』

web版

http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/data/doc/1657696402_doc_40_0.pdf

◆ 比較文化学類 ホームページ

<http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/>

比文各領域・コースの教員情報、
業論文の題目も参照してください。

卒





比文の特色 1. グローバルな文化の探求

- 外国語を学ぶ 外国語で学ぶ
- 外国の文化を学ぶ
- 日本の文化を紹介する基礎を学ぶ
- 外国人教員・留学生と学ぶ

ティーチング・アシスタントやティーチング・フェローの大学院留学生が指導を補助する国際交流活動

- 各国への長期・短期留学：在学しながら海外へ
カナダ プリンズ・エドワード島大学での国際研修



比文の特色2.臨地実践型実習教育

- 教室の学修と連動した日本研究，文化人類学，文化地理学，文化創造論，比較宗教など各コースの実習授業（臨地・実践的なフィールドワーク）
- 地域実地調査（資料・地図収集，景観観察，聞き取り・アンケート，有形・無形の文化財調査。事前・事後学習）。文化活動の実践。





就職・キャリア

- **多方面での活躍**

国家・地方公務員，中学校・高等学校教諭，博物館・美術館学芸員，企業

その道を究めて：個性ある多様な生き方

- **大学院への進学**

筑波大学のほか，東京大学・京都大学・早稲田大学・など日本内外の大学院へ

→卒業生には大学教員・研究機関研究員なども多数



ご清聴ありがとうございました

ご入学をお待ちしております